

おきび
夏の熾火 春吉 省吾著

天才弓術家の生きざま

「冬の櫻」「春のみなも」に続く、福島市出身の作家による歴史長編小説「四季4部作」の3作目。物語が県内で展開された前2作から一転、紀州藩(和歌山)を舞台に実在した3人の天才弓術家の生きざまが描かれる。

物語を貫くのは江戸時代の前・中期、京都・三十三間堂で行われた通し矢。一昼夜かけ矢を打ち続け、通した矢の数を競う「大矢数」は当時、藩



の面子かみづを懸けた大イベントで、各藩お抱えの弓術家がしのぎを削った。

主人公である3人の紀州藩士は、この大矢数で「天下惣一」と称された歴代の覇者。このビッグタイトルをめぐるのは、紀州とライバル尾張藩が火花を散らし、弓の道を究めようとする個性的な天才たちも、藩主たちの思感しんかんに翻弄される。

一般的には、あまり知られていない弓術の描写が、実に新鮮で魅力的だ。(ノーク出版・上下各巻2268円)

読書

土曜掲載

早くも多くの方に読后感想を頂いております。
まとめ次第次第逐次ご紹介させていただきます。